

謝 辞

本論文をまとめるまでに、多くの方々のご指導・ご支援をいただきましたことに深く感謝致します。

本研究を進めるにあたり、指導教官であります早稲田大学人間科学学術院の藤本浩志教授には研究指導や論文指導など熱心なご指導に感謝しております。

副査の国立身体障害者リハビリテーションセンター・学院・義肢装具学科の高嶋孝倫先生には、研究開始当初から装具に関する技術的な面でご支援を頂きました。先生の的確なご指導なしではこの論文は成り立たなかったと思います。また、同義肢装具学科の大石暁一先生を始めとして職員の皆様方には大変お世話になりました。

副査の早稲田大学人間科学学術院の鈴木秀次教授には、公開審査後の本論文の修正に的確なご指導を頂きましたことに感謝致します。

副査の早稲田大学人間科学学術院の戸川達男特任教授には、グローバルな視点でのご指導を頂きましたことに感謝致します。

歩行実験を行うにあたって、東京都心身障害者福祉センターの職員の皆様や現兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所主任研究員の橋詰努様には、多大なるご協力を頂きましたことに感謝致します。また、実験に協力して頂いた4名の被験者の方に感謝致します。脳卒中片麻痺について大変勉強になりました。

実験用装具製作においては、宮城障害者職業能力開発校の指導員である小松原秀樹氏には、こちらの細かい製作指示に対して忠実に再現して頂いたことに感謝致します。彼は大学の同期であり、不明な点を気軽に相談できる友人でした。

藤本研究室の皆様方に感謝致します。特に、博士課程の同期である土井幸輝君とは、夜遅くまで研究の相談をして、精神的な支えになってくれました。同じく同期の小林吉之君には実験に協力して頂き、マルセイユでのGait & Postureの国際学会に一緒に出ることができました。Chez FonFonで共に食事をしたことは一生忘れません。また、修士生や学部生の皆さんとも楽しく過ごせました。彼らの若いエネルギーに触れることができたことに感謝致します。

在職でありながら大学院に行くことができたのは、国立職業リハビリテーションセンターの職場の皆様のおかげでありましたことに感謝しております。市川和通所長、井上裕夫主任、真鍋勝憲主任には大変お世話になりました。

最後に、常に暖かい笑顔で支えてくれた妻や息子や娘に非常に深く感謝しております。また、在学期間中の2005年12月26日に母親と2006年2月8日にセネガル長期派遣時代のプロジェクトリーダーでありました小林徳七郎氏が他界されました。非常に深い悲しみの中でしたが、逆に研究を遣り遂げる原動力になりました。ご冥福をお祈りするとともに、学位論文を書き上げたことを報告させて頂きます。

2007年1月